

石木ダムは必要最小限度の水源を確保する計画です！

石木ダムは昭和50年度に事業に着手しており、ことしで43年が経過しています。この間、人口の推移や社会経済情勢などが変化してきていますが、石木ダムの計画は常に「必要最小限度」となるように、社会情勢に応じて適宜見直しを重ねています。

昭和50年当時は、人口が増加を続けていましたし、全自動洗濯機やユニットバスなど生活様式も向上していました。また、当時予定されていた新規工業団地（針尾工業団地）への給水等も予定されていたので、石木ダムでの新規水源開発は日量6万m³が計画されていました。

しかし、その後、新規工業団地計画は現在のハウステンボスに変わり、また人口も平成に入ってから緩やかな減少に転じ、節水機器の普及など生活様式にも変化がありました。そのため平成16年から19年にかけての見直しで、人口減少や節水機器の普及が今後も続くことを想定し、開発水量を日量4万m³に大幅に下方修正することになりました。

確かに水源は豊富にあるほど安心ですし、企業誘致等による都市の発展の可能性も広がりますが、一方で、ダムの建設によって移転を余儀なくされる方もおられますし、少なからず自然も失われます。そのため、石木ダムは「水道の安定供給確保」と「必要最小限度の開発」を両立させる計画としており、このことが事業認定等の手続きや裁判等でも認められています。市民の皆さまにもあらためてご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



水道局総務課、水源対策・企画課 ☎ 24-1151

九十九島と海の楽しみ

シーカヤックガイド
ウエーブピーク代表取締役 堤 正年さん

私が九十九島の魅力にハマっていったのは九十九島パールシーリゾートのマリーナでラジコンヨットを楽しんだのが始まりでした。

その時、たまたまカヤックを楽しんでいられる人から声を掛けられ、興味本位でカヤック体験ツアーに参加。すると、見たこともない景色に感動！また次の週にも参加したところ、その時に中古カヤックの話があったので、「買います」と二つ返事で答え、それがきっかけで九十九島でのシーカヤックにハマっていきました。

その後、父も誘い、二人で九十九島に行くようになりました。カヤックは波と風と水しぶきの音だけでなく、漕ぎながらの会話も普通にできます。普段はあまり話さなくても、海の上では話が尽きないぐらいでした。

九十九島でカヤックを始めて20年以上になります。その中で、海で知り合った方々にたくさんのことを学びました。小型船舶の操縦を習ったり、マリッジットのことを教わったり、ヨットで韓国まで行ったりと、九十九島で知り合った方々にマリンスポーツの楽しさを教わりました。

しかし、マリンスポーツは楽しいことばかりではなく、常に危険と隣り合わせで、自分勝手な行動が命に関わることもあります。九十九島でマリレジャーを楽しむためには一人一人がマナーを守ることが大事であると思います。私にとって九十九島は本当に大好きな場所です。九十九島を誇りに思い、もっと大切にしていきたいと思っています。

観光課 ☎ 24-1111



佐世保市は「連携中枢都市宣言」を行いました！

佐世保市は平成28年4月1日に中核市へ移行し、広域的な都市圏形成に関して中心的な役割を担うことができるようになりました。

このことから、本市は近隣の11市町（平戸市、松浦市、西海市、東彼杵町、川棚町、波佐見町、小値賀町、佐々町、新上五島町、佐賀県伊万里市・有田町）に働き掛け、行政区域の枠を超えて「行政サービス」や「都市機能の広域化」などの視点から連携の可能性を協議してきました。

その結果、本年9月3日に開会された佐世保市議会9月定例会市議会の冒頭において「西九州させぼ広域都市圏」の形成に向け、中心市としての「連携中枢都市宣言」を行うことができました（宣言文全文は広報させぼ10月号に掲載しています）。

この宣言は、人口減少や高齢化が進む中、地域経済の縮小や社会保障費などの増大によって行政サービスを持続的に提供できなくなってしまうという現実的なリスクに対して、圏域の中心市である本市が近隣の市町と協力しながら、できる限り低減を図り、圏域住民全体の暮らしを支える役割等を担う意思を明らかにしたものです。

今後は平成31年4月の都市圏形成を目指し、11市町



「連携中枢都市宣言」を行う朝長市長

の個性を尊重しつつ、産業、観光、医療、福祉、教育などの分野において、協力・連携して取り組みを進めていくこととしています。

市民の皆さまには、県境を越え、海も超えた「西九州させぼ広域都市圏」で、子どもが数多く誕生し、移住者がこの圏域を定住の地として目指すように、それぞれの立場からご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

佐世保市長 朝長 則男

ご近所付き合いを大切に

最近、ご近所の同じ班に米海軍基地の外国人の方が家族で引っ越して来られ、近所の方にお菓子を持ってあいさつに来られました。今時は日本人でさえ引っ越しのあいさつに来られる方が少なくなったように感じますが、別の日には「帰国していたので」とお土産までいただきました。

異国から小さな子ども連れで佐世保に来られ、不安も大きい中でのお付き合いだと思いますが、私はその皆さんとのお付き合いによって、私たち日本人が忘れかけている大切なことを教えてもらったような気持ちになりました。

今の世の中、異常気象で毎年どこかで大きな災害が起こっています。地震も怖いですが、高齢化で一人暮らしや老夫婦生活も問題になっています。いつ、どんなことで助けをもらい、お世話になるかもしれません。今後もさりげないご近所付き合いを大切にしたいと思います。

(60代 匿名)



「聞いて徳する話」募集中
身の回りで見つけた「聞いて「徳」する話」を募集中です。応募用紙は事務局で配布しており、市ホームページからダウンロードすることもできます。
事務局
佐世保徳育推進会議（佐世保市教育会内）
〒857-0054 栄町4番11号
電話・ファクス 23-2856
Eメール sasebotokuiku@alpha.ocn.ne.jp

人の動き（10月1日現在）

- 総人口 249,628人（前月比 -151人）
男性 118,181人（-90人）女性 131,447人（-61人）
- 世帯数 105,567世帯（前月比 -11世帯）
- 9月中の動き
転入 483人、転出 555人 出生 148人、死亡 227人

広報番組

